

2021、10月号

ハノイ日本人学校 学校便り

令和3年10月1日

## こころの道

# Nhan hau Thông minh Khỏe mạnh



やさしく

ニャンハウ

かしこく

トンミン

たくましく

ホーエマイン

校長 明石清二

### 宮大工

日本が誇る宮大工 小川 三夫 氏の講義を14年前に拝聴したことがあります。落ち着いた立ち居振る舞いと語り口に、強い信念と真摯さを感じました。この方は、「ほんもの」という直感です。

小川氏は、数百年に一度行われる「法隆寺の大修理」を指揮した宮大工 西岡 常一 氏の唯一の内弟子であり、全国各地の寺院建築や改修を手がけてきました。

宮大工になろうとしたきっかけは、高校時代の修学旅行。進学校に在籍していた小川氏は、このときまで大学進学を考えていました。しかし、法隆寺を見たときに、「ロケットで月に行く時代、1300年もつ寺を作ることは大学に進むよりも価値がある」と思ったそうです。その後、西岡氏の門をたたきますがすぐには弟子入りを認められず、4年後に弟子入りを認める手紙を受け取ったときには、涙があふれ出たと語っていました。

内弟子となり、勇んで出かけ自分の使っている道具を西岡氏に見せたとき、西岡氏はぼいっとその道具を床に投げ捨てたといいます。こんな道具でどうするのかという意味なのでしょう。

数日して、鉋（かんな）の刃を研ぐことを命じられます。半日、研いで見せに行くと西岡氏は振り向くこともしませんでした。次の日、丸一日研いで見せに行きますが、やはり同様です。自分の仕事をしながら、毎夜、鉋の刃を研ぐことを続け3か月が過ぎました。見せに行きますが、やはり同様です。

だんだんと見せに行くことも遠のきましたが、毎夜毎夜研ぎ続け、一年が過ぎた頃、西岡氏がふいにやってきて鉋の刃を眺め「よし」と一言だけ声をかけてくれたそうです。二度目の涙があふれてきたとしみじみと話されました。鉋の刃は、もう既になくなっていました。

仕事をすることとはどういうことなのか、何をどうすることなのかを小川氏に学びました。コロナ禍により行動様式が一変した現在、今一度襟を正し仕事に正対したいと教職員一同、気持ちを新たにしました。



### スクールカウンセラー

オンライン授業が長くなり、子供たちの心の平衡が保たれているのか心配です。そこで、「スクールカウンセラーと話す会（はなすかい?）」を企画しました。10月中旬から、昼休みの時間を活用して児童生徒一人ずつ面談を実施しますが、都合が悪い場合にはお知らせください。「もし良ければ」といった立ち位置ですので、御理解いただけますと幸いです。

スクールカウンセラーの着任が遅れており、御迷惑をおかけしています。大幅に遅れることも想定されますが、オンラインにて面談を継続してまいりますので御活用ください。

### ICT 教育整備事業の進捗状況

昨年度から本格的に ICT 教育の整備に取りかかり、本年度は端末 100 台及び学習ツールの整備を手がけ、納品を待っている状況です。次年度には端末を全児童生徒に配付し、より効率的な授業を展開する予定であり、オンライン授業に限らず日常的に活用できる ICT 教育を目指しています。